

宮田守男 フィールド風 (現場)からの

10月初旬、開設1200年を迎えた高野山へ旅した。秋の大法界「奥ノ院満燈会」と庭儀結縁灌頂三昧耶戒(ていぎけちえんかん

じょうさんまやかい)をぜひ見たいとの願いだった。秋の大法界「奥ノ院満燈会」は10月1日〜3日まで燈籠堂にて行われる催事だ。

燈明の光を頼りに進むと、僧侶の東日本大震災供養の法要が行われていた。聞くに僧侶になつたばかりの者だけで執り行われるとの事。若き僧侶が、思いの丈を込めた清らかな経には心を打たれた。

庭儀結縁灌頂三昧耶戒は、金剛界の仏さまと曼荼羅(まんだら)が縁を結ぶ厳格な法界だ。参道を埋め尽くしたのは、外国人が多かった。多くのカメラ

が記録した映像が、外国でどの様に理解されるのか気になってしま

う。空海を開祖とする真言宗は、密教として知られている。密教とは、「秘密の教えを意味したものだ」。一般

高野山を訪ねて信仰の力が大勢の皆様を引き寄せる事に関心を持ってみませんか

の仏教は、民衆に向かって広く広義を言葉や文字で説くのに対して、密教は、言葉では表現できない「仏の境地」それ自体を伝えるものだとしていた。密教は、老若男女を問わず、この世における

成仏である「即身成仏」を説いたことで、画期的な仏教の教えとして当時は驚きをもって迎えられたとの記述があったが、私自身の仏教に疎い知識では理解できない事が多かった。しかし、当時、お

おくの僧侶が唐に留学して多くの教えを日本に持ち帰った歴史があった事も事実だ。多くの教えを、海外に求めた知恵を、忘れてはいけなさと改めて考えさせられた。高野山は、特に女人

禁制の寺で知られ、明治39年まで続いた。特に厳しかったようで、空海の母でさえ入山を許さなかったと伝わっている。これまで女性蔑視の宗教と思っていたが、山岳信仰が大きな理由だと知る事がで

きた。山の神が、女性を嫌う諸説がある事も知っていたので大きな疑問が、旅したことで理解できたとうれしくなる。



早朝の伽藍境内、歴史を感じる作法「三昧耶戒」を見る事ができた

回も、総本山・金剛峯寺が発行する「高野山昔話」を購入した。高野の七不思議や、吉野桜と高山まきの歴史話を考えながらの散策は格別なものとなった。大北地域にも、歴史的

な神社仏閣がある。外国からのお客様に、どの様な見せ方ができるのか、知恵を出してほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・森上白馬村)